

高等学校における特別な教育的支援を必要
とする生徒への指導・支援の充実に向けて
(参考資料集)

令和3年(2021年)

山口県教育委員会

目 次

○早期からの適切な指導・支援のためのスケジュール例	1
○実態把握・自己理解	3
・実態把握のためのチェック表（教員用）	
・自己理解のためのチェックシート（生徒用）	
・自己理解のためのチェックシート（教員・保護者用）	
○自立活動の内容を踏まえた指導・支援	8
・特別支援学校学習指導要領「自立活動」の内容 6 区分 27 項目	
○個別の教育支援計画作成例【通常の学級用（通級による指導を含む）】	11
○障害種に応じた指導目標・指導内容の例	13
○合理的配慮の提供	17
・各学校における「合理的配慮」提供のプロセス例	
・「合理的配慮」提供のためのチェックリスト	
・「合理的配慮」検討のためのシート	
○特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり	21
・「わかる」「できる」を実感できる授業づくり	
・ユニバーサルデザインを意識した一斉指導の工夫の例	
・全校教職員でつくる校内支援体制	
○学習上の支援機器等を活用した授業実践	24
・第2学年 国語総合	
・第1学年 社会	
・第2学年 理科	
・第1学年 体育	
○学習上のつまずきなど特定の困難を示す生徒に対する指導・支援事例	31
・第2学年 国語総合	
・第2学年 体育	
・第2学年 理科	
○通級による指導事例	38
・読み書きが苦手、学習意欲が低い生徒への指導・支援	
・友人とうまく付き合うことができない生徒への指導・支援	
・生活リズムが崩れ、学校生活に支障をきたしている生徒への指導・支援	

○早期からの適切な指導・支援のためのスケジュール例

合格発表	合格通知書に同封 (情報提供の依頼)	中学校からの引継ぎ(指導状況の把握) 入学前に伝えておきたいこと(保護者記入)
仮入学	通級による指導ガイダンス	通級による指導の目的・内容の説明 (県作成リーフレット参照) →希望する生徒・保護者との面談
春休み	提出書類の集約 中学校との引継ぎ クラス編制会議 面談①	生徒理解・支援シートの作成 中学時の指導状況の把握 情報を基にしたクラス編制会議 支援や配慮の内容、要望等の確認

	月	活 動	内 容
1 学期	4月	職員会議 実態把握の開始 →実態把握のためのチェック表の活用① 第1回校内委員会	情報収集した内容の周知・共有 全教職員による行動場面や日常生活の観察による実態把握 →気付きは生徒理解・支援シートに記入 支援や配慮を要する生徒の情報共有
	5月	「Fit(生活アンケート)」① 校内研修会 学生ボランティアによる学習支援 面談週間 →自己理解のためのチェックシートの活用①(生徒、教員・保護者用)	学校適応感の測定 生徒理解と生徒に応じた支援や工夫について 実態把握に基づき、よりきめ細かい援助や教育的配慮を行う 学校生活や定期考査の結果について
	6月	個別の教育支援計画の作成 校内研修会	担任・校内コーディネーターを中心に作成 生徒の困難さに応じた指導内容や指導方法について ※特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり ※学習上の支援機器等を活用した授業
	7月	事務手続き ※通級による指導が必要な場合 第2回校内委員会	「教育課程編成・変更届」 →所管する教育委員会に提出(随時) 特別な支援が必要と思われる生徒の指導・支援の情報共有 ※指導・支援事例

夏休み	面談② 校内研修会	生徒・保護者と目標の共通理解 支援や配慮、要望等の確認
-----	--------------	--------------------------------

	月	活 動	内 容
2 学期	9月	実態把握の継続 →実態把握のためのチェック表の活用② 放課後等の学習支援	特別な支援が必要と思われる生徒の指導・支援 実態把握に基づき、よりきめ細かい援助や教育的配慮を行う ※合理的配慮の提供
	10月	「Fit(生活アンケート)」②	学校適応感の測定 支援を必要とする生徒との関わりについて
	11月	面談週間 →自己理解のためのチェックシートの活用②(生徒、教員・保護者用)	科目選択への助言
	12月	第3回校内委員会	特別な支援が必要と思われる生徒の指導・支援の情報共有

冬休み	面談③	個別の教育支援計画の見直し
-----	-----	---------------

3 学 期	月	活 動	内 容
	1月	放 課 後 の 活 動	放課後の活動 学生ボランティア 第4回校内委員会
2月	職員会議 面談④ → <u>自己理解のためのチェック シートの活用②</u> (生徒、教員・ <u>保護者用</u>) 「Fit (生活アンケート)」③		対象者について協議・決定 生徒・保護者への説明・確認 (合意形成) 学校適応感の測定
3月	事務手続き ※通級による指導が必要な場合 個別の教育支援計画の作成 個別の指導計画の作成 面談⑤ 次年度への引継ぎ		「通級による指導」同意書 (様式1) →合意形成後、在籍校に提出 「通級による指導」の実施について (様式2) →所管する教育委員会に提出 評価・次年度の目標 (案) の記入 担任・教育相談担当・通級担当を中心に作成 経過・結果の確認

春休み	指導準備 面談	「個別の指導計画」の作成・検討 支援や配慮の内容・指導内容の確認
-----	------------	-------------------------------------

○自己理解のためのチェックシート（生徒用）

このチェックシートは、「①生徒用」、「②教員・保護者等用」の2種類があります。年間を通じて3回程度行うことを想定しています。

「①」を行うことで、自己評価の低い生徒の意欲を高めたり、「①」「②」を比べることで、自己と他者のズレを見付けたりすることに活用できます。

また、指導の重点や目標の修正、個別の指導計画の作成等に活用することもできます。

自立のためのチェックシート① 〈生徒用〉例

年 組 名前 _____ (担当 _____)

1～4の各項目を見て、自分にできる程度を、4つの段階に分けて考えてみましょう。それぞれの項目に当てはまる番号を書き入れてください。

「できる」……………4 「ほとんどの場面でできる」…3
 「できないことが多い」…2 「できない」……………1

1. 生活面

	項目	1回目	2回目	3回目
		/	/	/
(1)	周りの人に対して、印象の良い服装や髪型、清潔さなどを整えることができる			
(2)	1日の「やるべきこと」の優先順位(順番)を考え、時間通りに活動することができる			
(3)	1週間や1か月など、スケジュールを立てることができる			
(4)	関わりのある人に対して、自分から挨拶ができる			
(5)	相手や場面に合わせた言葉づかいができる			
(6)	健康管理(食事や睡眠、体調の把握など)ができる			
(7)	困ったとき、解決策を考えたり相談したりすることができる			
(8)	ストレスを解消するため、自分なりに余暇(休みの日など)を過ごすことができる			

2. 対人・社会面

	項 目	1回目	2回目	3回目
		/	/	/
(1)	自分の長所と短所を知っている			
(2)	人と接するとき、その人の気持ちに寄り添いながら接することができる			
(3)	どんな場所でも、その場にいる人と上手にコミュニケーションを図ることができる			
(4)	自分の考えや意見を、人に分かりやすく伝えることができる			
(5)	時と場所の状況を判断して、適切な行動（ルールやマナーを守るなど）をとることができる			
(6)	いろいろな場面で、その場にいる人と協力して行動することができる			
(7)	イライラしても、自分で気持ちをコントロールして落ち着くことができる			
(8)	自分の行動を振り返り、次に生かすことができる			

3. 学習・作業面

	項 目	1回目	2回目	3回目
		/	/	/
(1)	学習や活動に対して、意欲的に取り組む（計画を立てる、自分から進んで行うなど）ことができる			
(2)	授業中、姿勢良く（周囲が驚くようなあくびをすする、机に伏せるなどをしないで）取り組むことができる			
(3)	作業や活動に、最後まで取り組むことができる体力がある			
(4)	指示を聞いて理解し、行動することができる			
(5)	授業時間（1時間程度）、集中することができる			
(6)	「始め」から「終わり」まで、丁寧に取り組むことができる			
(7)	活動に取り組むとき、人からのアドバイスを生かして活動することができる			
(8)	指示を受けて活動したとき、終了したことを自分から報告することができる			

■ 総 計

	1回目	2回目	3回目
生活面			
対人・社会面			
学習・作業面			
総 計			

「満点」を取ることが目的ではありません。「得意な面・苦手な面」を知ること、活動を重ねた結果の「自分の変化」への気付きなど、生徒自身の「自己理解」を深めたり、活動の内容の検討や、活動を通して解決の手段を教員と一緒に検討したりするなどの資料として活用するとよいでしょう。

■ このシートに取り組んで、自分で気付いたこと

1回目	2回目	3回目

○自己理解のためのチェックシート（教員・保護者用）

自立のためのチェックシート②（教員・保護者等用）例

実施者

実施日 月 日

教員() / 保護者 / その他()

【年組氏名 ○○ ○○】

	評価	A	B	C	D	自立活動関連項目
生活面 (自己理解を含む)	1 身だしなみ	清潔感があり、整っている	言葉掛けにより改善できる	自ら整えることが難しい	言葉掛けをしても整えることが難しい	1- (1)
	2 時間(1日)	優先順位を考えて、時間とおりに活動することができる	優先順位を考えることができるが、時間を守れないことがある	予定の確認をしても、時間を守れないことが多い	優先順位を考えにくく、時間を守る事が難しい	1- (1) 4- (5)
	3 スケジュール(中・長期)	1週間、1カ月など中長期的なスケジュールを自分で立てることができる	助言があれば、中長期的なスケジュールを自分で立てることができる	スケジュールを立てるときは、必ず誰かの助けが必要である	助言があっても、スケジュールを自分で立てることが難しい	1- (1) 3- (3)
	4 挨拶	自分から挨拶ができる	環境に慣れると自分から挨拶ができる	相手から挨拶をもらうことで、挨拶を返すことができる	どんな環境でも自分から挨拶することが難しい	3- (1) 6- (1)
	5 会話・言葉づかい	相手や場面に応じた会話・言葉づかいができる	経験を重ねると場面に応じた会話・言葉づかいができる	助言によって場面に応じた会話・言葉づかいに直すことができる	会話・言葉づかいを適切に行うことが難しい	3- (1) 6- (1)
	6 健康管理	自分で健康管理(睡眠、食事、運動・体調管理等)ができる	周囲(家族等)の力を借りて、健康を維持することができる	言葉掛けをしても、生活リズムが崩れやすく、体調を崩しやすい	健康管理に対する概念がなく、注意が向かない	1- (1) 3- (3)
	7 困った場面への対処	困ったとき、適切な方法を自分で考え対処することができる	困ったとき、自分でヘルプを出して対処することができる	自分でヘルプを出すことができず、対処方法が分からない	困ったとき、自ら対処方法を考えることができず、情緒が不安定になる	2- (1) 6- (2)
	8 余暇(休み時間を含む)の過ごし方	適切な自分なりの方法で余暇を過ごし、リフレッシュを図ることができる	周囲の働き掛けがあれば、安心して余暇を過ごすことができる	自分なりに余暇を過ごすのが、次の日に疲れを残すなど、方法が適切ではない	余暇の過ごし方が分からず、苦痛に感じている	1- (1) 2- (1)
対人・社会面 (人間関係・コミュニケーション等)	1 自己理解	自分の得意なこと不得意なことを的確に理解することができる	自分の得意なこと不得意なことを概ね理解することができる	自分の得意なこと不得意なことを理解し始めている	自分の得意なこと不得意なことを理解することが難しい	1- (4) 3- (3)
	2 他者理解	相手の気持ちを理解することができる	相手の気持ちを理解しようとする	相手の気持ちを考えようとするが、理解に至らない	相手の気持ちを理解することが難しい	3- (1) 3- (2)
	3 コミュニケーション	場面や相手に応じて円滑なコミュニケーションを図ることができる	相手によって、コミュニケーションを図ることができる	コミュニケーションを図ろうとする様子が見られる	コミュニケーションを図ることが難しい	6- (1) 6- (5)
	4 意見の表出	自分の考えを、相手に分かりやすく伝えることができる	自分の考えを、相手に伝えることができる	他者の働き掛けによって、自分の考えを相手に伝えることができる	自分の考えを伝えることが難しい	6- (2)
	5 ルール、マナー	場面にあった適切な言動ができる	言葉掛けにより場に合った言動ができる	絶えず言葉掛けすることにより状況に応じた言動ができる	場面にそぐわない言動が多い	3- (4) 6- (2)
	6 協力・協調性	場面に応じて、他者と協力・協調することができる	場面によっては、他者と協力・協調することができる	他者と協力・協調することが難しい	協力・協調が必要な場面でも、他者と関わらない	4- (4) 6- (5)
	7 感情のコントロール	日ごろから、落ち着いて過ごすことができる	感情が不安定になっても、自分なりの方法で落ち着きを取り戻すことができる	他者の言動等で、すぐに感情が不安定になる	常に感情が不安定である	2- (1) 3- (2)
	8 振り返り	自分で言動を客観的に振り返り、次の行動に生かすことができる	時間を設定することで、自分の言動を客観的に振り返ることができる	時間を設定することで振り返りはするが、自分の都合よく振り返る	どのような場面でも、自分の言動の振り返りが難しい	1- (2) 6- (3)
学習・作業面 (遂行能力・意欲等)	1 作業(学習)意欲	偏りなく意欲がある	内容によって取り組む姿勢が異なる	意欲的に取り組む場面に限られる	全般的に意欲がない	2- (3)
	2 姿勢	どの活動でも、よい姿勢を維持できる	場面や内容によっては、崩れることがある	場面や内容によって、崩れることが多い	終始、崩れている	5- (1) 5- (2)
	3 体力	最後まで取り組む体力がある	時に疲れた様子は見せるが、継続できる	時に疲れるが、休憩することで続けることができる	すぐに疲れて休んでしまう	1- (5)
	4 指示の理解	1回の指示で理解できる	数回の指示で理解できる	その都度の指示で理解できる	指示理解が難しい	4- (5) 6- (1)
	5 集中力	1時間程度、集中できる	集中が途切れることがある	集中が頻繁に途切れる、または過度に集中し終了時刻になっても終了できない	集中することが難しい	2- (1) 4- (2)
	6 丁寧さ、注意の継続	終始、丁寧に取り組むことができる	条件によって注意を持続し、丁寧に取り組むことができる	休憩を入れると、ある程度丁寧さを維持することができる	丁寧に取り組むことが難しい	5- (5)
	7 アドバイスの聞き入れ	アドバイスを参考にして試行錯誤し、完成度を上げることができる	アドバイスを聞いて、失敗の数を減らすことができる	アドバイスを聞いてもあまり参考にせず、自分本位で行い失敗が多い	アドバイスを聞き入れることが難しい	5- (5) 6- (2)
	8 報告	指示を受けたことに対して、自分から報告できる	経験を重ねることで自分から報告ができる	言葉掛けにより自分から報告することができる	自分から報告することが難しい	6- (1) 6- (5)

○自立活動の内容を踏まえた指導・支援

【特別支援学校学習指導要領「自立活動」の内容 6区分27項目】

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
項 目	(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事 こと。	(1)情緒の安定に関する事 こと。	(1)他者との関わり の基礎に関する事 こと。	(1)保有する感 覚の活用に関する 事 こと。	(1)姿勢と運 動・動作の基本 的スキルに関する 事 こと。	(1)コミュニケ ーションの基礎 的能力に関する 事 こと。
	(2)病気の状態の 理解と生活管理 に関する事 こと。	(2)状況の理解 と変化への対応 に関する事 こと。	(2)他者の意図 や感情の理解に 関する事 こと。	(2)感覚や認知 の特性について の理解と対応に 関する事 こと。	(2)姿勢保持と 運動・動作の補 助的手段の活用 に関する事 こと。	(2)言語の受容 と表出に関する 事 こと。
	(3)身体各部の 状態の理解と養 護に関する事 こと。	(3)障害による 学習上又は生活 上の困難を改善 ・克服する意 欲に関する事 こと。	(3)自己の理解 と行動の調整に 関する事 こと。	(3)感覚の補助 及び代行手段の 活用に関する事 こと。	(3)日常生活に 必要な基本動 作に関する事 こと。	(3)言語の形成 と活用に関する 事 こと。
	(4)障害の特性 の理解と生活環 境の調整に関す る事 こと。		(4)集団への参 加の基礎に関す る事 こと。	(4)感覚を総合 的に活用した周 囲の状況につい ての把握と状況 に応じた行動に 関する事 こと。	(4)身体の移動 能力に関する事 こと。	(4)コミュニケ ーション手段の 選択と活用に関 する事 こと。
	(5)健康状態の 維持・改善に関 する事 こと。			(5)認知や行動 の手掛かりとな る概念の形成に 関する事 こと。	(5)作業に必要 な動作と円滑な 遂行に関する事 こと。	(5)状況に応じ たコミュニケー ーションに関する 事 こと。

生命を維持し、日常生活を行うために必要な健康状態の維持・改善を身体的な側面を中心として図る。

1 健康の保持

(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事

体温の調節、覚醒と睡眠など健康状態の維持・改善に必要な生活のリズムを身に付けること、食事や排泄などの生活習慣の形成、衣服の調節、室温の調節や換気、感染予防のための清潔の保持など健康な生活環境の形成を図る。

(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事

自分の病気の状態を理解し、その改善を図り、病気の進行の予防に必要な生活様式についての理解を深め、それに基づく生活の自己管理ができるようにする。

(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事

病気や事故等による神経、筋、骨、皮膚等の身体各部の状態を理解し、その部位を適切に保護したり、症状の進行を防止したりできるようにする。

(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事

自己の障害にどのような特性があるのか理解し、それらが及ぼす学習上又は生活上の困難についての理解を深め、その状況に応じて、自己の行動や感情を調整したり、他者に対して主体的に働き掛けたりして、より学習や生活をしやすい環境にしていく。

(5) 健康状態の維持・改善に関する事

障害のため、運動量が少なくなったり、体力が低下したりすることを防ぐために、日常生活における適切な健康の自己管理ができるようにする。

<p>2 心理的 な安定</p>	<p>自分の気持ちや情緒をコントロールして変化する状況に適切に対応するとともに、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する意欲の向上を図り、自己のよさに気付く。</p> <p>(1) 情緒の安定に関すること 情緒の安定を図ることが困難な幼児児童生徒が、安定した情緒の下で生活できるようにする。</p> <p>(2) 状況の理解と変化への対応に関すること 場所や場面の状況を理解して心理的抵抗を軽減したり、変化する状況を理解して適切に対応したりするなど、行動の仕方を身に付ける。</p> <p>(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること 自分の障害の状態を理解したり、受容したりして、主体的に障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲の向上を図る。</p>
<p>3 人間関係 の形成</p>	<p>自他の理解を深め、対人関係を円滑にし、集団参加の基盤を培う。</p> <p>(1) 他者との関わりの基礎に関すること 人に対する基本的な信頼感をもち、他者からの働き掛けを受け止め、それに応ずることができるようにする。</p> <p>(2) 他者の意図や感情の理解に関すること 他者の意図や感情を理解し、場に応じた適切な行動をとることができるようにする。</p> <p>(3) 自己の理解と行動の調整に関すること 自分の得意なことや不得意なこと、自分の行動の特徴などを理解し、集団の中で状況に応じた行動ができるようになる。</p> <p>(4) 集団への参加の基礎に関すること 集団の雰囲気に合わせてたり、集団に参加するための手順やきまりを理解したりして、遊びや集団活動などに積極的に参加できるようになる。</p>
<p>4 環境 の把握</p>	<p>感覚を有効に活用し、空間や時間などの概念を手掛かりとして、周囲の状況を把握したり、環境と自己との関係を理解したりして、的確に判断し、行動できるようにする。</p> <p>(1) 保有する感覚の活用に関すること 保有する視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚などの感覚を十分に活用できるようにする。</p> <p>(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること 障害のある幼児児童生徒一人ひとりの感覚や認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるようにするとともに、特に自己の感覚の過敏さや認知の偏りなどの特性について理解し、適切に対応できるようにする。</p> <p>(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること 保有する感覚を用いて状況を把握しやすくするよう各種の補助機器を活用できるようにしたり、他の感覚や機器での代行的にできるようにしたりする。</p> <p>(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること いろいろな感覚器官やその補助及び代行手段を総合的に活用して、情報を収集したり、環境の状況を把握したりして、的確な判断や行動ができるようになる。</p> <p>(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること ものの機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるようにする。</p>

5
身
体
の
動
き

日常生活や作業に必要な基本動作を習得し、生活の中で適切な身体の動きができるようにする。

(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること

日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図ることなどの基本的技能に関すること。

(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること

姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるようにする。

(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること

食事、排泄、衣服の着脱、洗面、入浴などの身辺処理及び書字、描画等の学習のための動作などの基本動作を身に付けることができるようにする。

(4) 身体の移動能力に関すること

自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上を図る。

(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること

作業に必要な基本動作を習得し、その巧緻性や持続性の向上を図るとともに、作業を円滑に遂行する能力を高める。

6
コ
ミ
ュ
ニ
ケ
ー
シ
ョ
ン

場や相手に応じて、コミュニケーションを円滑に行うことができるようにする。

(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること

幼児児童生徒の障害の種類や程度、興味・関心等に応じて、表情や身振り、各種の機器などを用いて意思のやりとりが行えるようにするなど、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身に付ける。

(2) 言語の受容と表出に関すること

話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出することができるようにする。

(3) 言語の形成と活用に関すること

コミュニケーションを通して、事物や現象、自己の行動等に対応した言語の概念の形成を図り、体系的な言語を身に付けることができるようにする。

(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること

話し言葉や各種の文字・記号、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し、他者とのコミュニケーションが円滑にできるようにする。

(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

コミュニケーションを円滑に行うためには、伝えようとする側と受け取る側との人間関係や、そのときの状況を的確に把握することが重要であることから、場や相手の状況に応じて、主体的にコミュニケーションを展開できるようにする。

○個別の教育支援計画作成例【通常の学級用（通級による指導を含む）】

個別の教育支援計画

氏名	○ ○ ○ ○	性別	○	生年月日	平成○○年○○月○○日
----	---------	----	---	------	-------------

※各項目の記載上の留意事項は、**県教委作成「個別の教育支援計画Q&A」**P16～P17及び様式1における留意事項を参照してください。

<p>生育歴 家庭の状況 身体の状況</p>	<p>【記入内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生育歴（出生時の様子、乳幼児期の様子や行動の特徴、疾病歴、学校・園の在籍状況等） ・家族の状況（家族構成等） ・身体の状況（病気、障害等） <p>【記入例】 (生育歴)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出生時…在胎10ヶ月、体重2,500g ・平成○年○月 ○○保育所入所 平成○年○月 ○○市立○○小学校（通常の学級）入学 平成○年○月 ○○市立○○小学校通級指導教室において通級による指導を開始 令和○年○月 ○○市立○○中学校 ○○市立○○中学校通級指導教室において通級による指導を開始 令和○年○月 ○○県立○○高等学校入学 <p>(家族の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族構成…母、弟
<p>生徒の実態 ・担任の気づき ・養護教諭より ・他の教職員より</p>	<p>【記入内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の状況 ・学習の状況 <p>【記入例】 (生活の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心の高い内容は集中して取り組むことができる。 ・見通しがもてない時や初めて経験する時、集団での活動において思い通りにいかない時などに心理的に不安定になり、立ち歩いて他の生徒の所へ話しに行ったり教室外に出て行ったりすることがある。 <p>(学習の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手指の不器用さがあるため、書字が乱雑になりやすく、板書をノートに書き写すのに時間がかかる。
<p>心理的・医学的 立場等からの意見 (診断・心理検査 の結果含む)</p>	<p>【記入内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理士等の心理の専門家の所見及びこれまでに受けた支援 ・医師の診断を受けている場合は、その所見や投薬等 ・医療機関、福祉機関等での療育・相談歴（機関名、年月日） ・心理検査の結果の概要と実施年月日 <p>【記入例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○病院○○医師からADHDの診断（H○.○.○） ・スクールカウンセラーとの面談（H○.○）（R○.○） ・WISC-IV(FSIQ○、VCI○、PRI○、WMI○、PSI○)（H○.○.○ ○○にて実施）
<p>本人・保護者の 願い</p>	<p>【記入内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の該当生徒についての願い（学習面、社会性、コミュニケーション、健康、地域での生活等） ・本人の願い <p>【記入例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校卒業後は、大学に進学したい。（本人） ・同学年の生徒との良好な人間関係を築いてほしい。 ・落ち着いた生活を送ってほしい。（R○.○.○）
<p>その他参考となる 事項</p>	<p>【記入内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他、指導・支援をする上で参考となる事項 <p>【記入例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○小学校において、小3から小6まで居住地校交流を実施

長期目標	・心理的に不安定になりそうな際の対処方法を身に付けるとともに、見通しをもって落ち着いた学校生活を送ることができる。
------	---

	重点目標	主な支援の内容・方法等	評 価
高1年	・心理的に不安定になった時に、短時間で気持ちを切り替えることができる。 ・授業や行事の流れを把握して行動することができる。	・クールダウン等ができる場所や、気持ちを切り替えるための方策を本人と相談して決めておく。 ・ワークシートの準備等により取組内容を明確にしたり、授業の流れをある程度一定にしたりする。	・養護教諭等に話を聞いてもらうことで落ち着きを取り戻すことが増えた。通級による指導の中で不安定になる要因等の自己理解を深めており、今後も継続した指導が必要である。 ・興味・関心の高い教科では、ワークシートの準備やグループワークの導入により主体的に取り組む姿が見られた。
高2年	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> 記入のポイント等は、県教委作成「個別の教育支援計画Q & A」 P23 の吹き出し部分を参照してください。 </div>		
高3年			

特に留意する事項（合理的配慮）等
【記入例】 <合理的配慮> 本来の学習内容に集中できるよう、ノートテイクについては、従来の書き写す方法に加え、状況に応じてタブレット端末で板書を撮影する方法を選択できるようにする。(①-2-1)(R.O.○) →本人及び保護者より申出があり、校内委員会で検討の上決定。職員会議で全教職員に周知徹底し、合理的配慮の内容について共通理解を図った。

進路先への引継ぎ事項		
記入年月日	令和 ○○ 年 ○○ 月 ○○ 日	<input type="checkbox"/> 保護者に引継ぎ事項について説明し、同意を得ました。
記入者氏名	○ ○ ○ ○	
引継ぎ担当者氏名	○ ○ ○ ○	
※記入する内容は 生徒の実情 を踏まえた上で精選しますが、内容が多くなる場合は項目を設定して記載することも考えられます。 【記入例】 ・情緒的な安定を図るため、校内等において信頼できる相談相手が必要である。 ・ノートテイクに関する合理的配慮の内容については、進学先の学習環境や本人の変容等を踏まえ、入学後に再度検討することが望ましい。		

利用している関係機関（機関名、利用内容、連絡先等）
【記入例】 ・発達障害者支援センター「○○○○」（月1回程度相談、TEL ○○○-○○○-○○○○）

○障害種に応じた指導目標・指導内容の例

① 言語障害		
状態像	器質的及び機能的な構音障害 話し言葉におけるリズムの障害 言語機能の基礎的事項の発達の遅れ	口蓋裂、構音器官のまひ等 吃音等 話す、聞く等の言語機能
指導目標	言語機能の障害の状態の改善を図る。	
指導内容	○構音の改善に関わる指導	・正しい音の認知や模倣、構音器官の運動の調整、発音・発語の指導など
	○話し言葉の流暢性を改善する指導	・遊びの指導、劇指導、斉読法など
	○言語機能の基礎的事項に関する指導	・日常生活と体験を結びつけた指導
	○話すことの意欲を高める指導	
	○カウンセリング	
指導形態	個別指導を中心に行う。	
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の言語及びコミュニケーション能力等についての実態を十分把握した上で指導の方針を決めることが必要 ・コンピュータや視聴覚機器等の教材・教具の有効活用 ・学級担任及び家庭との連携が必要（生活場面で継続的に発音・発語の練習を行うなど） ・器質的な障害のある生徒については、必要に応じて医療機関等との連携 	

② 自閉症		
状態像	他者と社会的な関係を形成することに困難を伴い、それに、しばしばコミュニケーションの問題や行動上の問題、学習能力のアンバランスを併せ有する。	
指導目標	社会的適応性の向上を図る。	
指導内容	○基本的生活習慣の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・特定のものや行動に対する強いこだわり ・対人関係、コミュニケーション等の改善に関する内容 ・他者との関わりの基礎等 ・手指の巧緻性、協応動作
	○情緒の安定、社会適応力の指導	
	○人間関係の形成	
	○認知能力の育成	
	○感覚機能、運動機能の育成	
指導形態	個別指導や小集団指導を適切に組み合わせて行う。	
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の障害の状態に即した特別の指導が必要 ・個別指導で円滑なコミュニケーションのための知識・技能を身に付け、個別指導で学んだ知識・技能を一般化する場面としてグループ指導を行うことが効果的 ・生徒の言語及びコミュニケーション能力等についての実態を十分把握した上で指導の方針を決めることが必要 ・コンピュータや視聴覚機器等の教材・教具の有効活用 ・学級担任及び家庭との連携が必要 	

③ 情緒障害		
状態像	心理的な要因による選択性かん黙 不登校、多動、常同行動、チック	
指導目標	社会適応性の向上を図る。	
指導内容	○基本的な生活習慣の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び、対人関係、コミュニケーション等の改善に関する内容 ・他者との関わりの基礎等
	○情緒の安定、社会適応力の指導	
	○人間関係の形成	
	○カウンセリング、心理療法等による指導	
指導形態	個別指導や小集団指導を適切に組み合わせて行う。	
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・選択性かん黙や不登校などの状態等の的確な把握や原因の究明は困難な場合があるため、教育内容や指導方法を決定する際は慎重に進めることが必要 ・学級担任及び家庭との連携が必要 ・医療機関等との連携が必要 	

④ 弱視		
状態像	拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が困難な状態の者	
指導目標	見え方の特性に応じた学び方や補助具の活用方法を身に付ける。	
指導内容	○視覚認知	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字や文章の読み書き指導 ・数学の図形に関する指導 ・地理歴史科の地図指導
	○目と手の協応 ○視覚補助具の活用	
指導形態	原則、個別指導。	
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的な情報収集や処理の方法を指導しなければ効果的に学習活動を行うことができない教科内容、理科や家庭科の実験・観察や実習など個別に配慮が必要な教科内容などは補充的な指導を行うことも必要 ・適切な明るさ等、自ら環境を整えることができるようにすることも大切 ・視覚補助具や視聴覚機器等の教材・教具の有効活用 ・医療機関等との連携（器質的な障害のある生徒）が必要 	

⑤ 難聴		
状態像	補聴器等の使用によっても通常の会話における聞き取りが部分的にできにくい状態	
指導目標	聞こえ方の特性に応じた学び方や補助具の活用方法を身に付ける。	
指導内容	○保有する聴力の活用を優先した指導	<ul style="list-style-type: none"> ・補聴器を適切に装用する指導 ・聴く態度の育成、聞き取りの練習 ・音声の聴取及び弁別の指導

	○言語指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の話し言葉の指導 ・ 語いの拡充のための指導 ・ 言語概念の形成を図る指導 ・ 日記等の書き言葉の指導
指導形態	原則、個別指導で行い、必要に応じてグループ指導を組み合わせる。	
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の程度の判断に当たっては、専門医による診断に基づき生育歴や言語発達の状況等を考慮して総合的に行う ・ 保有する聴力の活用を優先し、難聴に対する自分なりの受け止め、周囲の人たちの思いなどについて理解を深めることにより、通常の学級における学習や生活を円滑に行うことができるようにするための援助や助言も必要 ・ コンピュータや視聴覚機器等の教材・教具を有効に活用し、指導効果を高めることが必要 	

⑥ 学 習 障 害 (LD)		
状態像	<p>聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力など、特定のものの習得と使用に著しい困難を示す。</p> <p>全般的な知的発達に遅れはない。</p>	
指導目標	個々の認知の特性に応じて、得意な面を生かした学び方を身に付ける。	
指導内容	○聞くことの指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ できるだけ注意を持続させたり、音量に配慮したりして、注意深く話を聞かせる指導
	○話すことの指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書かれたものを見ながら自信をもって話をさせる指導
	○読むことの指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書いてある文字をゆっくり見極めながら音読する指導 ・ 細かな形の違いを見極めながら読む指導 ・ 指示語の理解を図る指導 ・ 書かれた事実を正確に捉えさせる指導 ・ 図解して主題や要点を捉えさせる指導
	○書くことの指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人に意識させながら正確に書く指導 ・ 経験を思い出しながらメモし、それを見ながら文章を書く指導 ・ 読み手や目的を明確にして書く指導
	○計算することの指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な事象を基に数概念を形成する指導 ・ 数概念を確認しながら計算力を高める指導 ・ 文章の内容を図示するなどしてその意味を理解させながら文章題を解く指導
	○推論することの指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図形を弁別する指導 ・ 空間操作能力を育てる指導 ・ 算数や数学で使われる用語を理解させる指導 ・ 位置関係を理解させる指導
	○社会的技能や対人関係に関わる指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルスキルトレーニング
	指導形態	個別指導やグループ別指導を適切に組み合わせで行う。
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の特性や、個別の教育的ニーズに十分配慮することが必要 ・ 月1単位時間程度の指導も十分な教育的効果が認められる場合があることから、一人ひとりの状態に応じた適切な指導時間数の設定が重要 	

⑦ 注意欠陥多動性障害 (ADHD)	
状態像	年齢又は発達に不釣り合いな注意力、又は衝動性・多動性により、社会的な活動や学業の機能に支障をきたす。
指導目標	行動上等の特性との付き合い方を具体的に学ぶことで、学習上、生活上の困難さを軽減する。
指導内容	○不注意による間違いを少なくする指導 <ul style="list-style-type: none"> ・刺激を調整し、注意力を高める指導 ・情報を確認しながら理解することを通して自分の行動を振り返らせる指導
	○衝動性や多動性をコントロールする指導 <ul style="list-style-type: none"> ・指示の内容を具体的に理解させたり、手順を確認したりして、集中して作業に取り組ませるようにする指導 ・作業や学習等の見通しをもたせるなどして集中できるようにする指導 ・自己の感情や欲求をコントロールする指導
	○社会的技能や対人関係に関わる指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスキルトレーニング
指導形態	個別指導やグループ別指導を適切に組み合わせて行う。
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動を参考にした指導を中心に、障害の特性や、個別の教育的ニーズに十分配慮することが必要 ・障害の状態の改善又は克服を目的とした指導と、各教科の内容を参考にした指導について、それらを組み合わせて行うことが効果的である場合には、適切な配慮の下に実施することが大切 ・月1単位時間程度の指導も十分な教育的効果が認められる場合があることから、一人ひとりの状態に応じた、適切な指導時間数の設定が重要

⑧ 肢体不自由	
状態像	肢体不自由の状態が、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別の指導を必要とする。
指導目標	個々の身体の状態に応じた、学び方の工夫や補助具の活用等を身に付けることで、身体の動きやコミュニケーションの状態、認知の特性等の学習上、生活上の困難さを軽減する。
指導内容	○身体の動きの改善・向上を図るための指導
	○視覚や聴覚の活用に関する指導
	○支援機器等を学習や生活に活用できるようにする指導
指導形態	主として個別指導で行う。
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な指導が、日常生活の場で生かされるためには、子どもへの指導とともに保護者への支援、在籍学級担任との連携が重要

⑨ 病弱・身体虚弱	
状態像	病弱・身体虚弱の状態が、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別の指導を必要とする。
指導目標	病気の状態等に応じた学習上、生活上の困難さを改善する。
指導内容	○健康状態の回復・改善や体力の向上を図るための指導
	○心理的な課題への対応や学習空白への対応などの指導
指導形態	主として、個別指導で行う。
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を充実させ、心理的な安定を促すとともに、心身の成長や発達に好ましい影響を与えることが大切

各学校における「合理的配慮」提供のプロセス（例）

ポイントは、「対話の積み重ね」と「合意形成に向けた努力（※）」です。



準備 **校内の相談支援体制の整備**
 (管理職のリーダーシップ・校内コーディネーターの指名・校内委員会・相談窓口の明確化など)

適切と思われる配慮を本人・保護者と相談するため、日々の建設的な対話を心がけましょう。

意思の表明 **本人・保護者から合理的配慮の相談**
 (表明がない場合も合理的配慮を必要としていることが明白である場合は自主的な取組に努める)

誰に相談すればよいのか、窓口を明確にした上で周知しておきましょう。

調整 **【調整】 校内委員会・学年会等を中心に**

- ①障害の状態や教育的ニーズの把握
 - ・いつ、どんな場面で、どのような困難を示しているか。
 - ・その困難を改善・克服するために必要な配慮は何か。
- ②配慮の内容や方法の検討
 - ・必要かつ適当であるか。
 - 教育的ニーズや教育目標との整合性はどうか。
 - 主体的な自立や社会参加のために必要かどうか。
 - ・過重な負担かどうか。
 - 体制面、財政面からみた実現の可能性はどうか。
 - 過重な負担の場合、代替案として何が考えられるか。

- ③②①
- ① ケース会議等を通して教職員間で合意形成
- ② 本人・保護者と随時対話を行い合意形成
- ③ 必要に応じて教育委員会等と連携



【決定】 配慮の内容や方法を決定し共通理解

○「個別の教育支援計画」等に明記

【提供】 学級担任等を中心に組織的に対応

○関係者で情報を共有しながら、全校体制で継続的に支援



定期的な評価 **配慮を実施した後も定期的に評価**
 <最も本質的な視点>
 授業内容が分かり、学習活動に参加している実感・達成感をもちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けていけるような教育が提供できているか。

柔軟な見直し **校内委員会等で改善策を検討・実施**
 <主な改善の視点>
 配慮の内容や方法、配慮のタイミング、配慮時の役割分担等



(※)合意形成では共に考え互いを理解するプロセスを重視します。

<合意形成を図るために>

- みんなが課題と目標を共有するようにしましょう。
- みんなが納得できるものを見出すように心がけましょう。
- みんなが納得できるものにするために創意工夫しましょう。

次ページより、小学校及び中学校における、合理的配慮の提供に係る事例等を掲載しています。

「合理的配慮」提供のためのチェックリスト等

「合理的配慮」の決定・提供に当たっては、該当幼児児童生徒の担当教員だけでなく、学校全体での組織的な実態把握、検討及び共通理解が必要であることから、「校内体制の整備」「発達障害の可能性のある幼児児童生徒の実態把握」「提供する『合理的配慮』の観点・項目」に関するチェックリストを作成しました。校内で「合理的配慮」の提供を検討する際に活用してください。

【チェックリスト1 校内体制の整備】

→ 校内で組織的に取り組むための体制整備について確認するためのものです。
「各事例におけるポイント」でのチェック項目とあわせて活用してください。



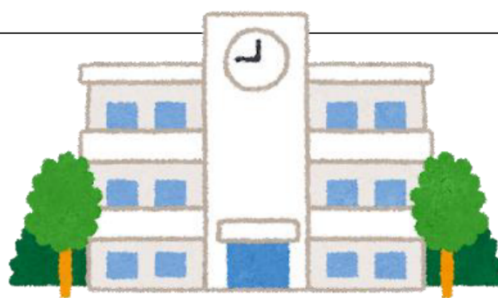
1	<input type="checkbox"/>	「合理的配慮」とは何か、全教職員が説明できる。
2	<input type="checkbox"/>	本人や保護者が「合理的配慮」の提供について相談する際の窓口は誰であるかを周知している。
3	<input type="checkbox"/>	「合理的配慮」の提供についてどのように検討するか、校内でのプロセスを定めている。
4	<input type="checkbox"/>	決定した「合理的配慮」の内容は個別の教育支援計画に明記し、全教職員で共通理解を図った上で組織的に提供している。
5	<input type="checkbox"/>	検討の結果、申出のあった「合理的配慮」の提供が過度の負担であると判断した場合、代替案を提示している。
6	<input type="checkbox"/>	障害のある幼児児童生徒と共に学ぶ幼児児童生徒に対して、発達段階に応じた、「合理的配慮」に関する理解啓発を図っている。
7	<input type="checkbox"/>	「合理的配慮」の提供を含む特別支援教育に関する研修を毎年実施している。
8	<input type="checkbox"/>	取組の参考となる「インクルーシブ教育システム構築支援データベース（インクルDB）」（国立特別支援教育総合研究所）や「合理的配慮サーチ」（内閣府）を活用している。

【チェックリスト2 発達障害の可能性のある幼児児童生徒の実態把握】

→ 学習面、行動面等でどのような困難があるのかを確認するためのものです。配慮の内容は、ここに挙げているものがすべてではありません。実態等に応じて個別に検討する必要があります。

カテゴリー		状態	<参考> 考えられる配慮の例
□学習面	□ 聞く	<input type="checkbox"/> 指示の理解が困難	<input type="checkbox"/> 視覚的な情報の提示 <input type="checkbox"/> 話し方の工夫（ゆっくり、簡潔に） <input type="checkbox"/> ICレコーダー等の機器の使用
	□ 話す	<input type="checkbox"/> 筋道立てた会話が困難	<input type="checkbox"/> 「5W1H」を整理できるワークシートの使用 <input type="checkbox"/> 話をしっかり聞く時間の保障
	□ 読む	<input type="checkbox"/> 音読が困難 <input type="checkbox"/> 読解が困難	<input type="checkbox"/> 音声教材（読み上げ機能等）の使用 <input type="checkbox"/> ルビをふる、文字の拡大 <input type="checkbox"/> 写真、イラスト等の視覚的な情報の提示
	□ 書く	<input type="checkbox"/> 書写が困難 <input type="checkbox"/> 作文を書くことが困難	<input type="checkbox"/> 個に応じたワークシートの使用 <input type="checkbox"/> パソコンやタブレット端末の使用 <input type="checkbox"/> 筆記の量の調整
	□ 計算する	<input type="checkbox"/> 計算が困難	<input type="checkbox"/> 計算問題の量の調整 <input type="checkbox"/> 個に応じたワークシートの使用 <input type="checkbox"/> 具体物や計算機等の使用

＜支援体制＞	
□専門性のある指導体制の整備	校長がリーダーシップを発揮し、学校全体として専門性のある指導体制を確保することに努める。個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成するなどにより、学校内外の関係者の共通理解を図るとともに、役割分担を担う。学習の場面等を考慮した校内の役割分担及び関係機関等との連携を行う。
□幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮	障害のある幼児児童生徒に関して、障害によって日常生活や学習場面において様々な困難が生じることについて周囲の幼児児童生徒の理解啓発を図る。保護者、地域に対しても理解啓発を図るための活動を行う。
□災害時等の支援体制の整備	災害時等の対応について、障害のある幼児児童生徒の状態を考慮し、危機の予測、避難方法、災害時の人的体制等、災害時体制マニュアルを整備する。また、災害時等における対応が十分にできるよう、避難訓練等の取組に当たっては、一人ひとりの障害の状態等を考慮する。
＜施設・設備＞	
□校内環境のバリアフリー化	障害のある幼児児童生徒が安全かつ円滑に学校生活を送ることができるよう、障害の状態等に応じた環境にするために、スロープや手すり、便所、出入口、エレベーター等について施設の整備を計画する際に配慮する。
□発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮	幼児児童生徒一人ひとりが障害の状態等に応じ、十分に学習に取り組めるよう、必要に応じて様々な教育機器等の導入や施設の整備を行う。また、一人ひとりの障害の状態、障害の特性、認知特性、体の動き、感覚等に応じて、その持てる能力を最大限活用して自主的、自発的に学習や生活ができるよう、各教室等の施設・設備について、分かりやすさ等に配慮を行うとともに、日照、室温、音の影響等に配慮する。さらに、心のケアを必要とする幼児児童生徒への配慮を行う。
□災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	災害時等への対応のため、障害の状態等に応じた施設・設備を整備する。



【「合理的配慮」検討のためのシート】

→ 校内で「合理的配慮」の内容を検討する際に、上記チェックリストと組み合わせて活用してください。

学年・対象幼児児童生徒名		
1. 「本人が今、困っていること」を整理しましょう。		
【困っていること】 上記チェックリスト2を参照し、該当項目にチェックした上で、具体的な内容を記入		
<input type="checkbox"/> 学習面 → <input type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く <input type="checkbox"/> 計算する <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 行動面・情緒面 → <input type="checkbox"/> 不注意・多動性 <input type="checkbox"/> 衝動性 <input type="checkbox"/> 対人関係 <input type="checkbox"/> 感覚過敏 <input type="checkbox"/> その他 <具体的な内容>		
【本人及び保護者の希望（申出がない場合は学校としての考え）】		
2. 「合理的配慮」の観点・項目を確認しましょう。		
【上記チェックリスト3を参照し、配慮が必要であると判断した項目にチェック】		
<教育内容及び教育方法> <input type="checkbox"/> 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮 <input type="checkbox"/> 学習内容の変更・調整 <input type="checkbox"/> 情報・コミュニケーション及び教材の配慮 <input type="checkbox"/> 学習機会や体験の確保 <input type="checkbox"/> 心理面・健康面の配慮	<支援体制> <input type="checkbox"/> 専門性のある指導体制の整備 <input type="checkbox"/> 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮 <input type="checkbox"/> 災害時等の支援体制の整備	<施設・設備> <input type="checkbox"/> 校内環境のバリアフリー化 <input type="checkbox"/> 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮 <input type="checkbox"/> 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮
3. 提供する「合理的配慮」を決定し、校内で共通理解しましょう。		
【決定した合理的配慮】 → 「個別の教育支援計画」等へ反映		

<参考>

合理的配慮について検討する際に、幼児児童生徒の困難の背景要因を正確に分析することが重要です。その際に、特別支援学校において、個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために独自に設けられた領域である「自立活動」の内容を参考にすることが考えられます。

自立活動は、以下のとおり6区分27項目で構成されています。具体的な内容については、「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編」（文部科学省、平成30年3月）を参照してください。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<項目> ・生活のリズムや生活習慣の形成 ・病気の状態の理解と生活管理 ・身体各部の状態の理解と養護 ・障害の特性の理解と生活環境の調整 ・健康状態の維持・改善	<項目> ・情緒の安定 ・状況の理解と変化への対応 ・障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	<項目> ・他者とのかかわりの基礎 ・他者の意図や感情の理解 ・自己の理解と行動の調整 ・集団への参加の基礎	<項目> ・保有する感覚の活用 ・感覚や認知の特性についての理解と対応 ・感覚の補助及び代行手段の活用 ・感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動 ・認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	<項目> ・姿勢と運動動作の基本的技能 ・姿勢保持と運動動作の補助的手段の活用 ・日常生活に必要な基本動作 ・身体の移動能力 ・作業に必要な動作と円滑な遂行	<項目> ・コミュニケーションの基礎的能力 ・言語の受容と表出 ・言語の形成と活用 ・コミュニケーション手段の選択と活用 ・状況に応じたコミュニケーション

○特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり

「わかる」「できる」を実感できる授業づくり

○特別支援教育の視点を取り入れて、特別な支援を必要とする児童生徒も含めた、すべての児童生徒が「わかる」「できる」を実感できる授業の実践につなげましょう。

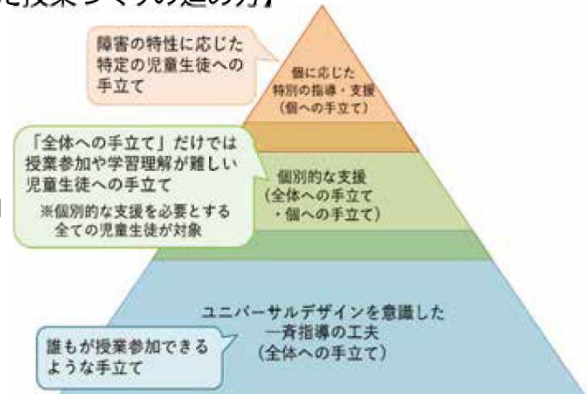
【通常の学級における特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりの進め方】

「特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり」とは、

- A ユニバーサルデザイン*1を意識した一斉指導の工夫
「全体への手立て」
- B 学習上の困難さに応じた個別的な支援
「個への手立て」

を具体化し、授業づくりにおける「計画→実践→評価→改善」のサイクルを通して進めるものです。

*1 ユニバーサルデザインとは、「バリアフリーは、障害によりもたらされるバリア(障壁)に対処する」との考え方であるのに対し、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をあらかじめデザインする考え方



【計画】
学習指導案の作成・準備

- ①ユニバーサルデザインを意識した授業を構想する。
学習上の困難さに配慮した授業づくりの3つのポイント
 - ・人…ペア学習やグループ学習等による学習内容の共有、教師の適切なタイミングでの言葉かけ等の支援等
 - ・物…視覚的教材やICT 機器等の活用、ワークシートの工夫、個別のヒントカードの活用等
 - ・場…共通のもてる板書、学びの足跡がわかる掲示等
- ②学習指導案を作成する。
 - ・指導案の本時の指導過程の「教師の働きかけ」の欄に、「全体への手立て(A)」、「個への手立て(B)」を明記し、下線を付す。

【実践】
授業実践・参観

- ③授業参観の視点を明確にする。(3つ程度)
 - ・授業者は、指導案の本時の指導過程で下線を付した部分(手立て)の意図を説明し、参観者と共有する。
- ④授業参観しながら、「授業づくりアイデアシート」(p.3)に記入する。
 - ・「有効だった全体への手立て(A)」、「有効だった個への手立て(B)」、「思いついた手立て」に分けてメモをする。

【評価】
授業のふり返り

- ⑤授業者は③で説明した授業参観の視点を中心に自評を行う。
- ⑥ワークショップ型の研究協議を行う。
 - ・3~5人のグループで「授業づくりアイデアシート」に付箋等を貼る。
 - ・「有効だった全体への手立て(A)」、「有効だった個への手立て(B)」、「思いついた手立て」について協議しながら、貼った付箋を分類したり、小見出し等を付けたりするなどして整理する。
- ⑦各グループから協議内容について発表し、全体で共有する。

【改善】
指導支援の改善と普及

- ⑧授業者は、研究協議で話題となった新たな手立てを実践する。
 - ・他の学級においても、有効と考えられる「全体への手立て」を実践
 - ・他の教員も障害等による困難さに応じた「個への手立て」を実践
- ⑨研究協議後の実践の結果を校内で報告・共有する。
- ⑩授業改善の取組を、校内研修や保護者向け広報などで全教職員や保護者等へ広く発信する。

ユニバーサルデザインを意識した一斉指導の工夫の例

■ 学習の見通しのもてる板書



■ 様々な学習形態 ＜ペア学習＞



＜グループ学習＞



＜リーダー学習＞*2



■ 音の刺激を軽減する工夫



※十分に乾燥させたテニスボールを使用したり、室内の換気を十分にしたりするなど、アレルギー疾患への配慮をしています。

■ ICT 機器の活用

■ 学びの足跡（掲示の工夫）

■ 誰もが参加できる発表の工夫



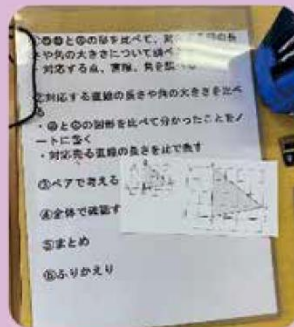
*2 リーダー学習は、複式学級における授業づくりの間接指導において取り入れられる学習形態の一つです。リーダーとなる児童生徒が学習を展開できるように手順表（進行表）を示したり、活動時間をタイマーで示したりするなどにより、特別な支援を必要とする児童生徒を含めたすべての児童生徒の授業参加や学習理解を可能とします。

学習上の困難さに応じた個別的な支援の例

■ 板書や提示教材をノート、ワークシートと連動



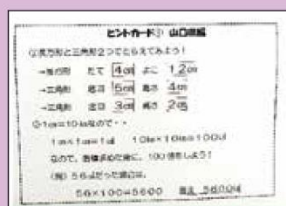
■ 個別の手順プリントの準備



■ 具体物、絵、カード等の活用



■ ヒントカードの活用



■ 困難さに応じた ICT 機器の活用 （タブレット端末を活用した読み上げ）



全校教職員でつくる校内支援体制

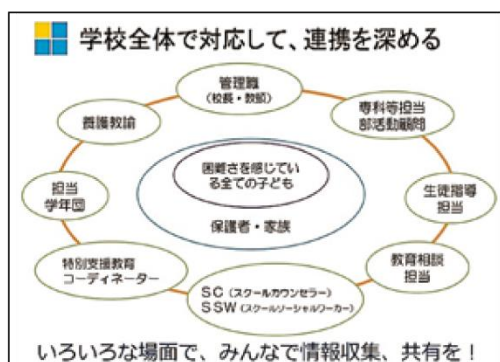
○教職員同士が、互いに相談し合える組織づくりと、円滑な情報共有を行い、子どもと保護者を中心とした全校体制での計画的な支援を行いましょう。

Q 保護者から合理的配慮の提供について相談がありました。どのように対応したらよいですか。

A 保護者の相談の主訴を丁寧に聞き取り、校内の先生方と情報を共有した上で、学校全体で支援の方向性を決定し、保護者と連携・協力しながら子どもの困難さを改善していくことが大切です。また、保護者だけでなく本人の意思を確認・尊重することも大事です。

保護者『対応』から保護者『支援』へ

- ① 思いを受け止める 寄り添う
言葉の奥の
- ② 必要なことを伝える 丁寧に
十分検討してから
- ③ ともに取り組む 学校で、家庭でできることの再点検→連携
理解し合い



ふれあい教育センター研修資料より

「全校教職員でつくる校内体制」づくりのための参考資料

山口県教育庁特別支援教育推進室



- P3 教室環境(学習環境)チェックリスト
- P4 学級経営チェックリスト
- P5 障害の特性等を踏まえた一斉指導の工夫
- P6 障害等による困難を軽減するための個別的な支援や配慮
- P7 組織支援チェックリスト

※巻末の【参考資料一覧】に QR コードがあります。

調査研究成果物『学級マネジメントプログラム』の紹介

やまぐち総合教育支援センター

ふれあい教育センター

学級マネジメントプログラム公開中！！

どうしたらいいのかな...

学年相応の課題を解くことが難しい | ペアやグループでの活動が難しい | 衝動的な言動を抑えられない

そんな先生方に、「インクルポケット」！
子どもの状況に応じた指導・支援の手立てを提案します！！

お手持ちのスマホ・タブレット端末等から、気軽にアクセス！！

学級マネジメントプログラム x 検索

<https://shien.ysn21.jp/joho/cgi-bin/wp-incl/>

平成30年度、令和元年度に行った調査研究「通常の学級における子どもの特性に配慮した学級づくり・授業づくりに関する研究Ⅱ」の成果物として、「学級マネジメントプログラム」を作成し、「いつでも・どこでも・誰でも」必要に応じて入手できるように、当センターウェブサイトで公開しています。(スマホ・タブレット可)

指導・支援の手立て集である「インクルポケット」は、困難さを感じている子どもの背景要因に目を向け、考えられる要因ごとに具体的な支援の方法を提案しています。積極的な活用をお願いします。



○学習上の支援機器等を活用した授業実践

<実践事例①>

(1) 対象とした学年

第2学年

(2) 教科名

国語総合

(3) 実施した指導内容

ア 学習活動を行う場合に生じる困難さ（実態・想定）

- ・ 学習経験が少なく、語彙が乏しい。
- ・ 読めない漢字が多々ある。
- ・ 作中の登場人物の相関関係や場面をイメージできない。
- ・ 作中の登場人物の心情が理解できない。
- ・ 今、どこを読み、どの活動に取り組んでいるのか分からなくなる。

イ アに対し実施した指導方法

- ・ 教員による補足的な語句の意味の説明
- ・ 生徒による辞書の活用
- ・ プリント等へのルビ振り
- ・ 登場人物やその関係性の提示
- ・ リアルタイムで活動の様子を提示

ウ イの結果（生徒の変容を含む）

- ・ 語彙の定着までは難しいが、意味の確認、ルビ振り等を行うことで、最後まで作品を読むことができ、また、文脈の理解が増した。
- ・ 登場人物を示しその関係性を示すことで、作品の様子のイメージしやすくなり、また、登場人物の心情を考える手だてとなった。
- ・ リアルタイムで活動を示すことにより、生徒が遅れる場面が少なくなった。また、仮に活動に遅れてもリカバリーすることができる生徒も増えた。

エ 活用した情報支援機器・ソフト

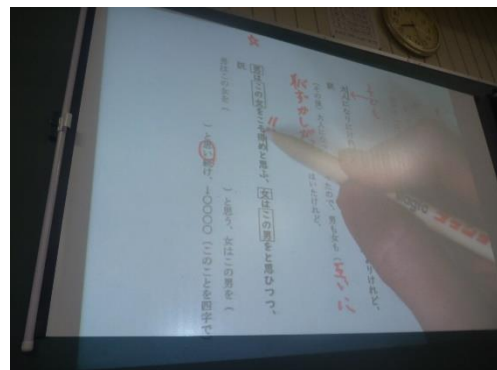
《情報支援機器》

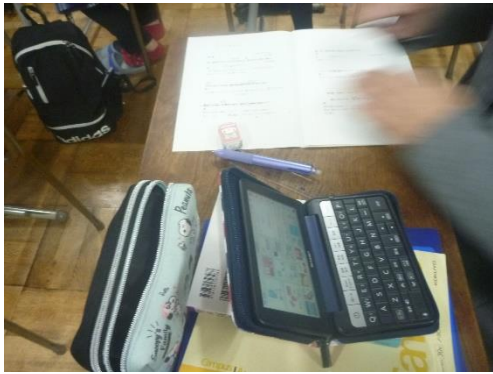
- ・ iPad、マグネットスクリーン、電子黒板、書画カメラ、電子辞書

《使用ソフト》

- ・ 写真ソフト、プレゼンソフト

オ 授業の様子





(4) 支援機器等教材を活用する際の留意点（選定検討・実践・学習評価）

- 設置に時間を要するため、授業前に設定が終わるように準備する。
- 機器の不具合があった場合も想定した、教材の準備を行う。
- スライド等で示すことで、授業テンポが速くなりがちになるため、必要に応じて生徒への確認を行う。
- スライド等だけの学習では、取り組んできた内容の蓄積ができないため、書き写しやファイル等の整理等の時間を設ける。
- 情報量が多くなりやすいため、資料の精選等教材研究を確実に行う。
- 板書と機器による内容の提示のバランスを考えた効果的な機器の使用を事前に検討する。

<実践事例②>

(1) 対象とした学年

第1学年

(2) 教科名

社会

(3) 実施した指導内容

ア 学習活動を行う場合に生じる困難さ（実態・想定）

- ・ 教科書や資料集の文字や写真の大きさが、生徒によって見えにくい場合がある。
- ・ グループワークの発表を聞くだけでは内容の共有が難しく理解を深めることができない。

イ アに対し実施した指導方法

- ・ iPad や電子黒板の拡大表示機能を活用して、文字や写真を拡大する。
- ・ ミニホワイトボードにまとめたグループワークの内容を、電子黒板に投影する。

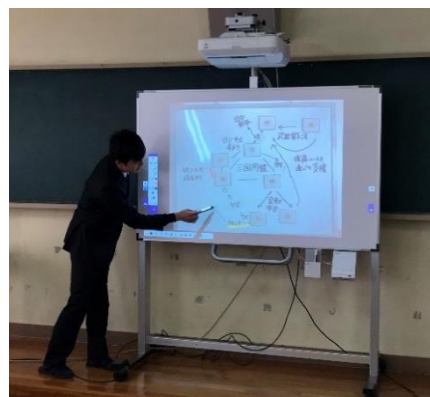
ウ イの結果（生徒の変容を含む）

- ・ 全員に電子黒板の文字や写真を見えやすいようにすることは難しいが、数パターンの大きさを表示したので生徒の反応はよかった。
- ・ グループのまとめを表示したり、生徒が説明したりすることで意欲が向上し理解が深まった。

エ 活用した情報支援機器・ソフト等

ノートパソコン、iPad、電子黒板、パワーポイント、カメラアプリ

オ 授業の様子



(4) 支援機器等教材を活用する際の留意点（選定検討・実践・学習評価）

- ・ ICT 機器等を活用すると効果があると考えられる“場面を設定”し、グループワークの内容を共有することが重要。
- ・ 今回は、iPad で撮影した画像を電子黒板に投影し、それを用いて生徒が説明することで内容を共有し、理解を深めることを授業のねらいとした。
- ・ グループワークの発表では、他のグループの説明に興味深そうに見たり、大きく頷いたりする生徒もいた。一方で、生徒が主体的に ICT 機器等进行操作するまでには至らなかった。事前に準備等を行えば、生徒の主体的な ICT 機器等の活用から、学びを深めることも可能であると感じている。

<実践事例③>

(1) 対象とした学年

第2学年

(2) 教科名

理科

(3) 実施した指導内容

ア 学習活動を行う場合に生じる困難さ（実態・想定）

- ・ 学習内容には、物体の運動などの現象をイメージする力を必要とする場面が多くある。しかしながら、現象をイメージすることが苦手な生徒が少なからず存在し、言葉だけの説明では理解が難しく学習活動が進まないことがある。
- ・ 講義型の授業を行う上で、集中力が乏しい生徒は学習活動に対して受動的になり、理解が進まないことがある。

イ アに対し実施した指導方法

- ① iPad で、あらかじめ撮影した現象を動画で見せる。
- ② iPad のハイスピード撮影アプリを使用して、運動の様子を撮影後、スローモーション映像で運動の様子を確認する。
- ③ 与えられた問題について、生徒一人ひとりが解答の過程を含めた内容を紙に記入後、iPad で撮影する。その撮影した画像をプロジェクターでホワイトボードに映し出し、解法や解答について複数の生徒でディスカッションする。

ウ イの結果（生徒の変容を含む）

- ① 言葉の説明では理解できなかった内容を、動画を見ることで理解できる。
- ② 実際の運動のスピードでは視認できない現象を、スローモーション映像を見ることで確認できる。
- ③ 同じ問題に対して、自分と他の生徒の解法や解答を見比べることで、ディスカッションが進み、より効率的で論理的な解法を考える機会となる。

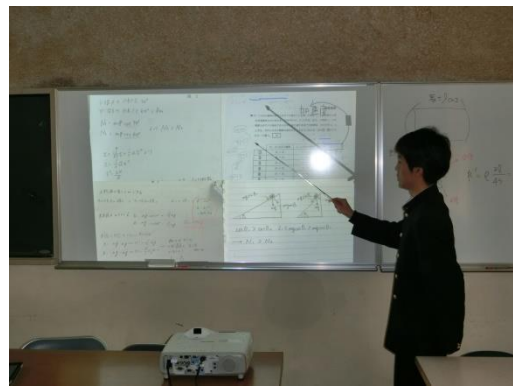
エ 活用した情報支援機器・ソフト

- ・ iPad（カメラアプリ、投影アプリ、スケッチアプリ）
- ・ プロジェクター（無線ユニット）

オ 授業の様子



iPad でスローモーション映像を確認



カメラアプリで撮った画像を基に説明

(4) 支援機器等教材を活用する際の留意点（選定検討・実践・学習評価）

- ・ 情報端末に関するアンケート等を行うなど、各学校の生徒の情報端末の活用能力がどの程度あるのかを把握した後、支援機器等の教材を購入した方が良いと考える。本校はアンケートを行ってはいないが、iOS (iPhone) を使用している生徒が多く、iPad の操作にもすぐに対応できる生徒が多く見られた。
- ・ 情報モラルの観点から、生徒どうしの安易な撮影等に対する注意など、事前指導をしっかりとっておく必要がある。

<実践事例④>

(1) 対象とした学年

第1学年

(2) 教科名

体育

(3) 実施した指導内容

ア 学習活動を行う場合に生じる困難さ（実態・想定）

- ・ 基礎となる技術が、すぐには理解しにくい（どうすればよいのか、ポイントとなる部分をつかめない）。
- ・ 自分の身体の動きがよく分からない（手本との違いだけでなく、自分が自分の体をどう動かしているのかがイメージできない）。
- ・ 用具の準備や片付けも含め、グループ学習での自分の役割と活動などが分からない（何をどうするのか、自分は何をすればよいのかを言われないと動けない）。

イ アに対し実施した指導方法

- ・ 手本となる動きを見せる（卓球部員や上手な生徒の動きを撮影して見せる）。
- ・ 運動している姿を録画して見せる（個人の動き、ペアやグループの動きが伝わるように工夫して撮影する）。
- ・ 準備や片付けも含めて、手本となるグループの学習方法なども録画しておき、再生時にそれについてもコメントする（同じようにすればよいと気づくように伝える）。

ウ イの結果（生徒の変容を含む）

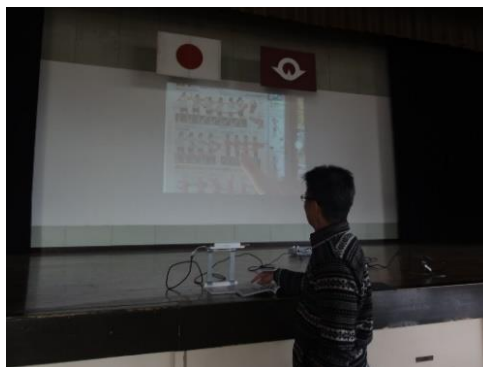
- ・ 手本となる映像を繰り返し見せたり、一時停止して解説を加えたりしたことで、どこがポイントになるのかを理解できた。
- ・ 自分の動き（個人の技術的なものや、グループ学習における様々な役割の部分など）を見たことで、教師の指導と支援の言葉が伝わりやすくなり、改善しようと努める姿が見られた。
- ・ 準備や片付けでは、自主的に動く生徒が増えた。

エ 活用した情報支援機器・ソフト

- ・ タブレット端末、AVアダプター、HDMIケーブル、卓上スタンド、プロジェクター



オ 授業の様子



(4) 支援機器等教材を活用する際の留意点（選定検討・実践・学習評価）

思春期である生徒の心情に配慮し、全員で見る場面とグループや個人で見る場面とで機器の使い方に気を付ける（良い点や参考となるものについてはプロジェクターを活用して全員で見るようにし、グループとしての改善策を提案する場合や個人への指導や支援ではタブレット端末から直接見るようにする）。

○学習上のつまずきなど特定の困難を示す生徒に対する指導・支援事例

<指導・支援事例①>

(1) 対象とした学年

第2学年

(2) 教科名

国語総合

(3) 対象とした生徒のつまずきの状況

- ・ 「聞き取り」に課題がある（聞き間違い・言い間違いが多い）
- ・ 口頭での説明が続くと集中が途切れやすい
- ・ 学習内容の定着が難しい（長期記憶が困難）
- ・ 学習に意欲がもてない

(4) 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

ア 実態把握の時期：1学期・2学期

イ 実態把握の方法（実施者・方法）：

- ・ 概ね以下のi～vの手順により実施（ii・vについては繰り返し）
 - i 校内コーディネーター…入学前の中学校との引継ぎにおいて学習の様子を把握。
また、仮入学等において保護者・本人から状況を聴取。
 - ii 教科担当者…授業時の気づきや感じたことを授業気づきシートに記入
教科担当者及びサポートスタッフ…生徒観察及び定期考査等の分析
教育相談担当者等…学習上の困難さについて本人聴取
全教職員…学校生活全般の様子から特性に通じるエピソードを集積
 - iii 養護教諭による保護者への当該生徒の「聞き取り」に関する医療受診や生育歴に係る聴取
 - iv 聴覚障害教育センターの特別支援教育コーディネーターの授業参観による実態把握
 - v 上記情報をもとにした教職員による協議

(5) 実施した指導内容

ア 学習上においてつまずいている内容

○ 言語能力的な課題

- ・ 語彙が少なく、「現代仮名遣い」「現代語訳」など基本的な語句の意味理解が難しい。
- ・ 自分が理解できる一部の字句に着目し、文章の意味を正確にとらえることができない。（定期考査等でも設問の一部の語句に着目して解答してしまうことがある。）
- ・ 語句（漢字）の読み方がわからないなどの小さなつまずきをきっかけに思考が停滞し混乱する。平静時には思い出せることや正答できることが、考査等の緊張を要する場面では、思い出せなかったり正答できなかったりする。

○ 学習に対する苦手意識

- ・ 中学時代からの長期にわたる成績不振により、学習に対する苦手意識や自信のなさがある。(定期考査は「欠点でなければよい」、小テスト等は「その場が過ぎればよい」と考える)
- ・ 課題・設問について、根気よく考えることが困難。(考査の記述問題でなかなか得点できない。)
- ・ 漢文に対する苦手意識が強く、「わからない」と思い込んでしまうことが多く、集中の持続が難しい。

イ つまづいている背景・原因

○ 聞き取りの困難さに起因すると考えられる言語能力の課題

- ・ 日本語における語頭、サ行音・ハ行音等の聞き取りの難しさ(新出語についてしばしば見られる)
- ・ 語彙力の低さ(言語理解力の弱さ)

○ 派生的に生起していると考えられる学習面での課題

- ・ 注意・集中の持続がやや難しい
- ・ 字形認識に課題(書字が雑・誤字)
- ・ ワーキングメモリーの弱さ
- ・ 学習に対する自信のなさから生じる苦手意識

ウ アに対し実施した指導方法(工夫した点(授業中、授業外))

[授業中]

○ 聞き取りの困難さに起因すると考えられる言語能力的な課題の解消に向けた取組

- ・ 重要事項を説明・確認する際は板書し、口頭のみで伝えることを避ける。
- ・ 漢文の読み方を全てひらがなで示した読みプリントを2種作成。(「ヒントなし」は、ひらがなのみ。「ヒントあり」は、漢字に当たるところに傍線あり。)
- ・ タブレット端末を書画カメラとして使用することによる学習プリントの拡大提示及び注目する箇所や記入箇所の提示。
- ・ プリント学習における生徒が記入する事項の精選。

○ 学習に対する苦手意識の解消に向けた取組

- ・ ICTを活用した興味・関心を引くような関連資料の視覚的提示。
- ・ 個々が作業する時間を設定し、疑問点を確認できるようにする。
- ・ 毎授業後の自己評価および教員コメントによるフィードバック。

[授業外] …実施は通級指導担当(当該生徒の副担任)による

○ 聞き取りの困難さに起因すると考えられる言語能力的な課題の解消に向けた取組

- ・ 文字の覚えにくい箇所をマークし、意識しながら書いて覚える等の勉強法の提案
→ 苦手な部分を意識化することで字句を正確に覚えることができ、定期考査の得点も上昇。

○ 学習に対する苦手意識の解消に向けた取組

- ・ 授業後、理解が難しかった事項について本人のつまづきを本人と一緒に確認し、理解・納得させる。

- 授業中に不明確であった事項を確実に理解することで「わかった」「できた」を実感でき、復習しようという意欲につながった。
- ・ 家庭学習の方法（できること・できないことを整理し、できないところだけを繰り返し復習する）の提案・試行。
- なかなか覚えられない事項を本人が認識し、効率よく学習する方略を知り、実践することで、家庭学習に励むようになった。勉強量に比して定着が難しく、定期考査の得点は大きく伸びなかったが、「悔しい」という思いをもつようになり、その後の学習意欲につながった。

エ ウの結果（生徒の変容を含む）

[授業中]

○ 生徒のつまずきに応じた支援の有効性の確認

- ・ 重要語句を板書等により提示したり、繰り返し音読したりしたことで、聞き間違いや言い間違いが減った。
- ・ 視覚的な提示があることにより授業に集中できるようになり、集中が途切れることがほとんどなくなった。
- ・ 漢文の読みに慣れ、授業後、時間を経てもスムーズに音読することができた。
- ・ 訓点つけの際に、読みプリント2種のうち「ヒントあり」を選び、安心して取組めることで意欲が見られるようになった。
- ・ 書き下し文がスムーズに書けるようになり、内容についても、授業後、時間を経ても大まかに説明することができた。
- ・ 字を丁寧に書くようになった。
- ・ プリントを拡大提示してスモールステップで授業を展開したことにより「わかる」「できる」を実感し、自分でプリントを見直して間違いに気づくなど、主体的に学べるようになりつつある。

[授業外]

○ 学習意欲の向上

- ・ 定期考査前の家庭学習の時間が全体で5～6時間増加した。
- ・ 苦手なところを意識して勉強することが（定期考査の）結果につながることを実感でき、「もう少しやっておけばもっと得点できたのに」と悔しがる姿が見られた。また「欠点でなければよい」といった発言がなくなり、次回の定期考査に向けて、テスト勉強の開始時期を早めようとしている。
- ・ 学年末考査では得点が上昇した。
- ・ 自分なりの勉強方法を考えることができるようになった。

○ 保護者との信頼関係のさらなる醸成

- ・ 生徒の学校での様子や変容について保護者と情報を共有することで、保護者と連携して本人の頑張りを見守ったり支えたりすることができた。

<指導・支援事例②>

(1) 対象とした学年

第2学年

(2) 教科名

体育

(3) 対象とした生徒のつまずきの状況

- ・ 集中力が低く、板書が遅い。
- ・ 「やる」といいながら、次の瞬間には別のことに気を取られ、注意すると腹を立てる。
- ・ 落ち着きがなく、じっとしている時間が短い。
- ・ 周囲の声や音に過剰に反応する。
- ・ 周囲の状況（人）に流されやすい。
- ・ 取組についての説明を聞いていないことが多々ある（聞き漏らし）。
- ・ 自分の理解できること、興味をもっていることはよく質問したり、それに答えたりするが、自分の理解を超えると集中力が途切れ無関心になる。
- ・ 言語理解力、文章を書く力が不足している。
- ・ 計算ミスが多い。

(4) 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

ア 実態把握の時期：4月から9月

イ 実態把握の方法（実施者・方法）：

実施者：教科担当

方法：教員による観察及び情報交換等による

(5) 実施した指導内容

ア 学習上においてつまずいている内容

- ・ 自分の都合で済ませようとする。
- ・ 説明時など、話を聞くことができず、その後の活動が分からなくなる。
- ・ 自分の意見を伝えず、他者の考え頼りになる。
- ・ 自分の思いつく好きな活動をしてしまい、集団での活動に遅れてしまう。
- ・ TPOを考えずに自分本位の行動を行う。
- ・ ボディーイメージが乏しく、運動技能面できこちなさがある。

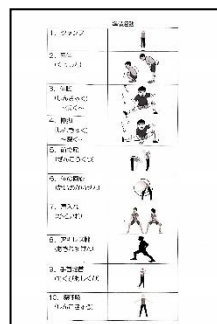
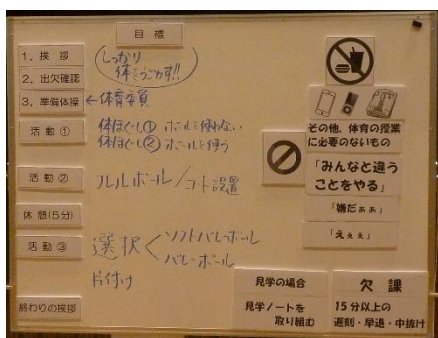
イ つまずいている背景・原因

- ・ 周囲の環境に影響されやすく、集中力が続かないためミスが起こりやすい。
- ・ 学習する習慣がない。
- ・ 語彙力が低い。
- ・ 空間認知力が低い。
- ・ 客観的に物事をとらえた経験が少ない。

ウ アに対し実施した指導方法（工夫した点（授業中、授業外））

- ・ 集中できるよう、授業前に不必要な物は片付けるよう言葉がけをする。
- ・ 開始時刻前、開始時刻を全体に対して予告をする。
- ・ 流れを示したパネルを使い、見通しをもたせる。
- ・ 授業中のルールを提示する。

- ・ 授業展開をパターン化する。
- ・ 活動ごとにゴールを示す。
- ・ 補足的な確認を個別に行う。
- ・ 役割（体操・号令・整列）を与え、活動に責任をもたせる。
- ・ 準備体操など、具体的な行い方を示したシートを用意する。
- ・ 球技など、試合の運営に関わりをもたせ、自主性を高める。
- ・ 試合や練習を通して自分の意見や他者の考えを確認する時間を設定する。
- ・ 休憩時間に入る前、次の活動内容について予告をする。
- ・ 適切な行動ができた際は、その場で褒める。
- ・ 指示を簡潔に行う。
- ・ 動きのタイミングなどを音に置き換え、タイミングを捉えるきっかけを作る。
- ・ 二人組等の活動を設定し、他の生徒と自分の動きの違いに気づかせる。



エ ウの結果（生徒の変容を含む）

- ・ 授業開始前に不必要な物を片付ける等、ルールを提示し毎時間全体に対して確認することで、対象生徒のみならず周囲の生徒の心構えなどの環境も整い、その結果、集中して活動に取り組む時間が増えた。
- ・ 活動に見通しを示すことで、安心して活動に取り組むことにつながった。
- ・ 授業の流れをパターン化することで、生徒が遅れて参加した場合や授業途中で活動が中断してしまった場合でも、再度授業に参加することにつながる場面があった。
- ・ 役割を与えることで責任もって授業に取り組むようになり、また役割を達成できた場合、すぐに称賛することで、学習に対するモチベーションが向上した。
- ・ 活動の間の休憩前に、再開後の活動を予告することで、スムーズな切り替えを行うことができた。
- ・ 運動技能の練習の際、教員による言葉かけの際、カウントなど加えることで、運動技能の向上が見られた。
- ・ 他の生徒の動きをモデリングできる場面の設定を繰り返すことで、自分の動きを修正しようとする様子が見られた。

<指導・支援事例③>

(1) 対象とした学年

第2学年

(2) 教科名

理科

(3) 対象とした生徒のつまずきの状況

- ・ 集中力が低く、板書が遅い。
- ・ 「やる」といいながら、次の瞬間には別のことに気を取られ、注意すると腹を立てる。
- ・ 落ち着きがなく、じっとしている時間が短い。
- ・ 周囲の声や音に過剰に反応する。
- ・ 周囲の状況（人）に流されやすい。
- ・ 取組についての説明を聞いていないことが多々ある（聞き漏らし）。
- ・ 自分の理解できること、興味をもっていることはよく質問したり、それに答えたりするが、自分の理解を超えると集中力が途切れ無関心になる。
- ・ 言語理解力、文章を書く力が不足している。
- ・ 計算ミスが多い。

(4) 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

ア 実態把握の時期：4月から9月

イ 実態把握の方法（実施者・方法）：

実施者：教科担当

方法：教員による観察及び情報交換等による

(5) 実施した指導内容

ア 学習上においてつまずいている内容

- ・ 地域による気候や環境の違いを理解でイメージできず、それに伴う生物体系を理解できない。
- ・ 口頭での説明では、用語を覚えられない。
- ・ 書くだけでは、覚えられない。
- ・ ノートへの書き写しで字が雑になる。

イ つまずいている背景・原因

- ・ 周囲の環境に影響されやすく、集中力が続かないためミスが起こりやすい。
- ・ 学習する習慣がない。
- ・ 語彙力が低い。
- ・ 空間認知力が低い。
- ・ 客観的に物事をとらえた経験が少ない。

ウ アに対し実施した指導方法（工夫した点（授業中、授業外））

- ・ ポイントとなる箇所は説明を繰り返したり、協調したりする。
- ・ 写真や映像を見せて、イメージしやすいようにする。
- ・ 板書の文字ははっきりと大きく書く。
- ・ プリントを準備し、()内に記入させる。
- ・ プリントの()に番号を振り、今どこを説明しているのか迷わないよう配慮する。

- ・ 問題に取り組ませる際、選択肢を設けて考える手だとする。
- ・ 答えに至るまで、ICTを用いて本文と一緒に辿りながら進めていく。

エ ウの結果（生徒の変容を含む）

- ・ 説明回数を増やすことで、取り組むべき活動を理解することができた。
- ・ 写真やイメージの映像を加えることで、生徒がイメージすることにつながった。
- ・ 質問内容を的確に理解できる場合とできない場合があったが、疑問を感じることはできた。
- ・ ()に番号を振ることで、周囲の生徒と同じペースで取り組む時間が増え、毎回到プリントを仕上げ提出できるようになった。
- ・ 読みやすくわかりやすい字を心掛けたことで、どの部分に取り組んでいるか理解しながら、活動に参加することができた。
- ・ 自主的な取組までには至らなかったが、本人が継続した支援を希望するようになった。

Case 1 読み書きが苦手な、学習意欲が低い生徒への指導・支援

支援が必要な状況

- 漢字の習得が不十分であるために漢字を読むことができず、文章の内容が理解できない。
- 板書を書き写すことに時間がかかり、時間内にすべてを書き写すことができない。
- 思ったように成績が伸びず、無力感をつのらせ学習意欲が高まらない。

考えられる苦手要因

- 文字の形と音と意味を結びつける過程のいずれかに困難さがあり、文章を読んで理解することが難しい。
- 語彙が少ない。
- 空間認知の弱さから、漢字の正確な形を捉えることが難しい。

在籍学級における配慮や工夫

- 1 座席の配置に配慮することにより、本人の聞きやすさや板書のしやすさを助け、また、教職員が生徒の取組を確認しやすくする。
- 2 聞いて理解する活動とノートやプリントに書き写す活動を区別して、書く時間を確保する。
- 3 板書の量やレイアウトを工夫する。
- 4 文字以外の情報（写真や映像、音源）を有効に使い、文章の理解を助ける。
- 5 事前に読むところを伝え、家で練習する。

【ワンポイントアドバイス】

授業等でのプリントや板書の工夫だけでなく、定期考査の問題用紙や解答用紙を工夫すると、生徒がもっている力や身に付けた力を発揮することにつながります。

学習活動

1

文字を読み上げ、教科書の文章を正しく読むことができる

- 教科書の文章に文節ごとに補助線（／・ー・＜）を引いたり、言葉のまとまりで囲んだりして読みやすいように工夫する。
- 行飛ばしなどによって本を読むことが苦手な場合は、リーディングトラック※を活用する。

※読みたい行に集中して読めるように、両隣の行の文字を隠して読み進める読書補助具

学習活動

2

読み書きの困難さによる特性に応じた支援教材を活用し、自分に合った学習方法を身に付ける

- 社会生活を視野に入れ、タブレット型端末やパソコンを活用させて、文字に対する苦手意識を軽減できるようにする。
 - 音声による読み上げ機器や音声録音などを利用する。
 - 画面の文字を偏と旁を色分けして示したり、部首の意味を教えたりする。
- 予習に力を入れる。
 - 理解を促すために、絵、写真、図などを利用する。

【ワンポイントアドバイス】

自分が困ったときに、どのように支援してほしいのかを具体的に伝えられるように、練習しておくことも必要です。

支援が必要な状況

- 場にそぐわない発言や相手を不快にさせるような言動をしてトラブルになることがある。
- 衝動の抑制が難しく、困っていることを適切に伝えることができない。

考えられる苦手要因

- 相手の思いや感情を読み取り、それに応じて行動することが難しく、周囲の状況や相手の気持ちを想像した適切な表現方法が身に付いていない。
- 自己の状態の分析や理解が難しく、自己をコントロールする力や援助を求める方法が身に付いていない。

在籍学級における配慮や工夫

■ 安心できる学級づくり

- 1 どの生徒からも相談しやすい雰囲気をつくる（定期の面談・教育相談の充実）。
- 2 守るべき規則の内容を明確にして、理由と併せて丁寧に説明する。

■ 支え合う学級づくり（個への配慮）

- 1 困ったときに自分から依頼しやすいルールや対応策を考えておく。
- 2 好ましくない行動をした場合には、行動を振り返り、本人の気持ちを受け止めた上で代替行動（どうすればよかったか）を話し合う。
- 3 他者の言動をからかいの対象にすることがないように、学級内でもルールを確認していくようにする。

【コラム】

自己肯定感が低く自分に自信がもてない生徒は、周囲から「よくできた」と評価されても、自分ではそう思っていないことがあります。そのような場合は、本人が努力したことや達成できたことについて一緒に振り返り、よかった点について具体的に伝える機会をもちましょう。過去の自分と今の自分を具体的に比較させて、本人が自分の成長を実感できるようにするという方法もあります。

学習活動

1

様々な場面を想定し、相手がどういう気持ちでいるのか考え、適切な関わり方を理解できるようにする

1) 相手の表情や言葉などから、相手の立場や相手が考えていることを推測する。

2) 他者との具体的な距離の取り方に関する指導を行う。

例：パーソナルスペースの考え方、相手や状況に応じた適切な距離感など

3) 会話するときのルールやマナーなど人との関わり方に関する指導を行う。

例：状況に応じた声の大きさ、ソーシャルスキルなど

- 相手の立場や気持ち、状況に応じた適切な言葉づかいや、場に応じた言動を考えさせる。
- 絵や写真などの視覚的な手掛かりや、タブレット型端末等を有効に活用しながら活動を進めていく。

学習活動

2

自ら適切な行動を選択し、調整する力を身に付ける

1) 行動を振り返り、出来事の因果関係を考える。

2) 適切な行動と感情をコントロールすることについて考える。

3) 感情をコントロールする力を高める。

- 行動と思考・感情を黒板やホワイトボードに図示しながら整理し、理解を促していく。
- 感情を出すこと自体は悪いことではなく、表現の仕方が問題となることを認識し、自分なりのコントロールの方法を身に付けることができるようにする。
- 実際の場面での望ましい行動や関わり方を、ロールプレイ等を通して身に付けることができるようにする。

【ワンポイントアドバイス】

- ・ 自分の行動や気持ちを振り返る時間を設け、様々な体験を通して自己理解を深められるようにしましょう。
- ・ 会話の背景を想像したり、実際の場面を活用したりして、どのように行動すべきか、また、相手はどのように受け止めるかなどについて、具体的なやり取りを通して指導していくようにしましょう。
- ・ 経験が少ないことや過去の失敗から、自己に肯定的な感情をもつことができない状態に陥っている傾向にあります。生徒の発言を否定せず、安心して取り組めるよう、信頼関係を築きながら進めていくようにしましょう。

Case2 指導案 例

期 日	〇〇年 〇月 〇日 () 曜日 () 限 第 () 回 累計 () 時間	
学習内容	ソーシャルスキル	実施場所
	(感情表現)	〇〇〇〇教室
本時の目標	関連する自立活動の区分・項目	
<ul style="list-style-type: none"> 感情を表す言葉を考え、伝え合おう 感情を読み取るポイントを理解しよう 	3-(2)他者の意図や感情の理解に関すること 6-(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること 2-(1)情緒の安定に関すること	

活動の流れ

学習活動	指導上の留意点	備考
(導入) <ul style="list-style-type: none"> 前時の振り返りをする。 本時の学習内容、ねらいを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時からの聞き取りを行う。 本時の活動内容、目標を提示し、確認させる。 	活動シート
(活動) ○感情表現について考える。 <ul style="list-style-type: none"> 感情には「喜怒哀楽」があることを確認する。 場面によってどのような気持ちを感じるか、自分の言葉で表現する。 気持ちを表す言葉について考える。 ○感情を読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> 人の表情が描かれたイラストを見て、どんな気持ちか、何があったのかを記入し、互いに伝え合う。 感情を読み取るポイントを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本の感情表現、四字熟語を確認する。 個々の経験から、感情の言葉とその時の状態を思い出して発言するよう促す。 相手に気持ちを適切に伝えるには、たくさんのお言葉を覚えておくこととよいことを伝える。 想像したことをプリントに記入させる。 発言しやすい雰囲気をつくる。 人によって感じ方は様々であることに気付くことができるようにする。 言葉だけでなく、声のトーンや顔の表情、態度など、非言語的な部分にも注目することを理解できるようにする。 	プリント 教材① ※P56 参照 プリント 教材② ※P56 参照
(振り返り・まとめ) <ul style="list-style-type: none"> 学習を通しての気づきや感想をまとめる。 本時の学習内容を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 理解したことを確認するとともに、自身の行動をフィードバックできるようにする。 学んだことを生活場面で意識化できるようにする。 	活動シート

評価の観点

- 気持ちを表す言葉や感情を伝え合うことができたか。
- 感情を読み取るポイントを理解できたか。
- 取組はどうだったか (指示理解、意欲、態度)。

Case 3 生活リズムが崩れ、体調不良になりやすく学校生活に支障をきたしている生徒への指導・支援

支援が必要な状況

- (短期的) ゲームをして寝るのが遅くなり、生活リズムが崩れ、体調を壊してしまう。
- (中期的) 期限を守った提出が難しい。
- (長期的) 定期テストなど、計画を立てた取組が難しい。

考えられる苦手要因

- 就寝の際、刺激となるものを、どうしても手に届きやすい位置に置いてしまう。
- 見通しやスケジュールを立てることが苦手である。
- 時間配分を考えて取り組むことが苦手である。
- 優先順位が付けられず、複数の課題や情報になると整理が難しい。
- 完璧にこだわり、課題が終了できない。
- メモの取り方やスケジュール帳等の使い方が分からない。
- 余暇の過ごし方、気分転換の方法等、バリエーションが少ない。

在籍学級における配慮や工夫

- 1 教室環境を整え、生徒が情報を整理して把握できるようにする。
- 2 活動内容を具体的に示し、適宜確認を行う。
- 3 生徒への関わり方について、教職員の共通理解を図る。

在籍学級の 実践 1

教室環境の整備



- 前黒板は、授業に関する内容のみを基本とする。
- その他の情報は、整理して後黒板に提示する。
- 生徒がいつでも必要な情報を確認ができるようにする。
- ロッカーや引き出しの中などについても、整理する習慣を学級全体で心掛ける。

在籍学級の 実践2

授業前の確認

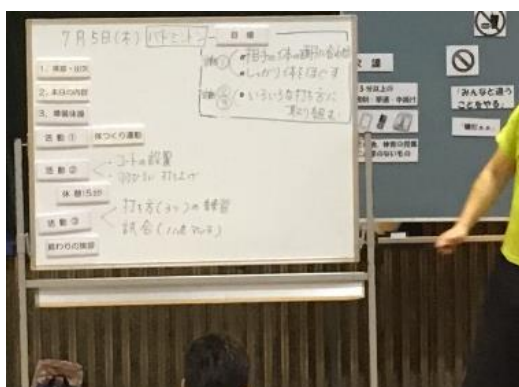
授業前の確認

- ① 授業の準備(教科書・ノート・筆記用具等)の準備はできていますか。
- ② 授業に不必要な物(他教科の教科書、ケータイなど)は片付けて

- 年度初め「授業開始前の確認」を実施することについて説明し、生徒の理解を得る。
- 生徒や学級の実態に合わせて、確認内容を検討する。
- 授業開始とともに、毎時間全体に対して確認する。
- 必要に応じて、個別に言葉掛けを行う。
- 必要に応じて、教室掲示し、授業に対する生徒の主体性の向上を図る。

在籍学級の 実践3

授業の構成・生徒への伝え方

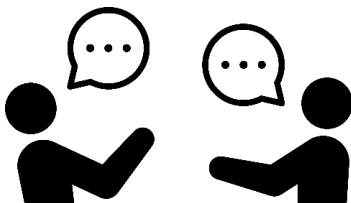


- 授業の流れを視覚的に示し、見通しをもたせる。
- 単元の目標を示す。
- 指示は短い言葉で、具体的に行う。
- 終了した活動は、二重線で消す。
- 時間配分を予告する。
- 机間指導を適宜行い、生徒が質問しやすい雰囲気をつくる。

学習活動

1

日常生活についての会話（自己理解・他者理解）＜毎時間実施＞



リラックスした雰囲気、生徒のみならず教職員も日常について会話を

【実態把握】



「悩み」等を他者と共有する経験を積む

【関係づくり】



解決策を考え、成功体験につなげる自己理解を深める

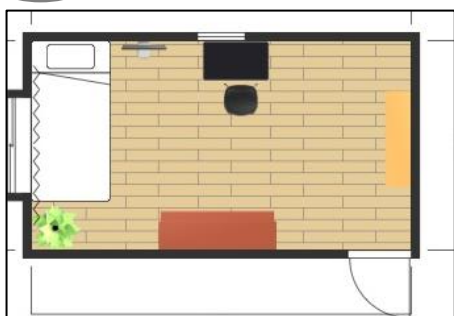
【自己理解】

- 出来事や考えを話すことから始め、「悩みごと」や「困ったこと」などについても共有する。
- 話を自分から始めることが難しい場合、サイコロトークなどの方法を用い、テーマを決めて話す。
- 状況の整理を教員と共に行い、生活上の困ったことを焦点化する。
- 他者理解を通して、自己理解を深める。
- 解決策を考え、成功体験を積み重ねる。

学習活動

2

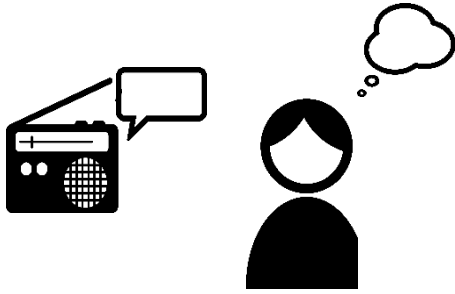
自分の部屋の様子を確認し、課題を探す



- 生徒の部屋の配置(ベッド、机、パソコン等)をイラストにして確認する。
- そのイラストから、課題点(物の配置、時間帯等)を整理する。
- 解決策を考える。
- 必要に応じて、保護者の方と情報を共有し、協力を得る。

学習活動
3

ポイントを押さえたメモの取り方



■メモのポイント

「話のテーマ」

「いつ、どこで、誰が、何を」

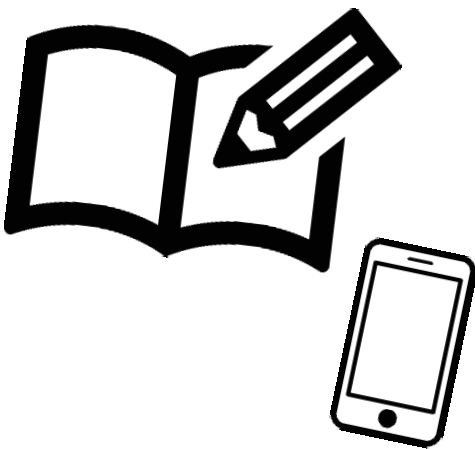
「どのくらい」(数字)

「どうする」「どうなった」(結果)

- ワークシートを作成し、話を聞いてポイントを記入する。
- 日常生活でも、メモを取る習慣をつける。

学習活動
4

スケジュールを立てる・振り返る



- 1日の生活の中でやるべきこと（To Do リスト）を考える。
- 概ね1週間を振り返り、健康状態など「困ったこと」があれば記録する。また、生徒ができる解決策を教職員と共に考え、実践につなげる。
- 学校の行事予定表を準備し、月のスケジュール帳に大まかな今後の予定を記入する。
- 予定の管理については、スマートフォンのアプリ等、本人の状況に合わせた使いやすい手段を自ら選択できるようにする。
- 活動後、保護者に連絡を取り、生徒の状況の把握や、保護者の協力をもらうべき新たな取組があれば説明し、理解を得る。

Case3 指導案 例

期 日	〇〇年〇月〇日 () 曜日 () 限 第 () 回 累計 () 時間	
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 週間の出来事について ・ メモ取り学習 	実施場所
		〇〇〇〇教室
本時の目標	関連する自立活動の区分・項目	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 週間の出来事を振り返り、他者と共有することができる。 ・ 話の要点をまとめて、メモを取ることができる。 	2-(1) 情緒の安定に関すること 6-(2) 言語の受容と表出に関すること 6-(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること	

活動の流れ

学習活動		指導上の留意点	備考
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の振り返りをする。 ・ 本時の学習内容、ねらいを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回、取り組んだ内容を思い出し、チャレンジしたことがあれば発表させる。 	前時のプリント
展 開	活動 1 「1 週間の出来事」を振り返り、他者に伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話しやすい雰囲気づくりを心掛け、生徒との関係を深めるようにする。 ・ 1 週間の印象的な出来事（楽しかったことや困ったことなど）について生徒と教員が互いに話をする。 ・ 1 週間の生徒の様子や変化など、生徒の実態把握の視点ももつ。 ・ 困ったことなどについて、解決策を一緒に考える。 ・ 生徒と教員が、一緒に考えることで、他者理解、自己理解が深まるように心掛ける。 ・ 話が難しい様子があれば、無理はさせず、話カードを利用し、そのテーマに沿って話をする。 	教材③ ※P56 参照
	活動 2 「メモ取り学習」 <ul style="list-style-type: none"> ・ メモを取ることの必要性 ・ 「要点を押さえる」方法 ・ 聞き取りにチャレンジ ①練習問題 「校内放送を聞き取る」 ②問題 「会話文を聞き取る」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分がどうやって情報を入手しているか考えさせる。 ・ 「5W1H」「理由」「数字」「結果」など、話を要約するポイントを伝える。 ・ タブレットからの音声データを聞き、プリントに記入させる。 ・ 上記ポイントを虫食いにしたプリントを準備する。 	学習プリント 1 学習プリント 2 音声データ
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習した内容のテーマ、ポイントを思い出す。 ・ 感想 ・ 次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日取り組んだ内容を確認し、本人の記憶に残るようにする。 ・ 活動の中で、生活上チャレンジできそうなことがあれば発表させる。 	学習プリント 3

評価の観点

- 1 週間の出来事について振り返り、他者と共有することができたか。
- 話を要約するポイントを理解し、日々の生活で生かすことができそうか。